

# 穂 学

平成28年度

広州日本人学校学校便り

[No. 5]

平成28年8月25日(木)(P)

発行責任者 教頭 高橋秀之

◆◆◆◆夏休みを終えて、充実した2学期へ◆◆◆◆ 校長 丸本 互

30日間の夏休みも終わり、2学期が始まりました。日本では「猛暑日」と言われる35度を超える日が何日も続き、外に出ると目の前がくらくらするような日が続いたようですが、広州もまた同じように蒸し暑い夏が続いています。そんな中でも元気に活動していた様子の子供たちが学校に戻ってきました。大きな事故の報告もなく、笑顔で夏休みの終わりを迎えられ、うれしく思っています。

リオのオリンピックでは、日本の選手たちが大活躍しました。テレビで観ていて感動のあまり涙がこぼれそうになる場面が多々ありました。普段の努力が実を結んだ瞬間だと思います。また、結果が出せなかった選手たちも、努力をしていなかったわけではありません。人の見ていないところで人一倍努力を重ねてきても、思うような結果が出なかったのだと思います。金メダルだ、銀メダルだ、と喜びますが、結果だけで判断するのではなく、今までの積み重ねをみんなで称えることができたから良いなとも思いました。

さて、夏休みには普段出来なかった活動ができたでしょうか。それぞれの思いで過ごした夏休み。この夏に培った力を、9月以降の学習や運動に役立てていって欲しいと思っています。2学期には、中学部2年生の北京への修学旅行、中学部1年生の深圳宿泊学習、小学部5年生の中山宿泊学習が予定されています。学校とは違う場で、学級や学年の友だちと一緒に過ごし、学習したり友好を深めたりできる大切な場です。下見をしてきた先生方に情報をもらって、自分たちなりの宿泊学習を作り上げられたら、きっと思い出に残るものとなることでしょう。どんな活動ができるのか私も楽しみにしています。また、10月末には学習発表会が予定されています。各学年、今まで培ってきた学習の成果を、自信を持って発表してくれることと思います。始めて参観するので今からとても楽しみです。

暑い日はまだまだ続きそうですが、着実に少しずつですが過ごしやすくなり、実りの秋（広州に秋があるのかは体験していない私には分かりませんが）に向かっているように思います。子どもたちも、夏休み前の学校での活動と夏休み中の家庭での取組を上手に組み合わせて、この2学期にしっかりと実を結び、充実した学校生活を送ることができるよう学校全体で支援していきたいと思っております。今後とも、学校に対するご理解、ご協力の程よろしくお願いいたします。



## 始業式～元気にスタート～

8月22日(月)いよいよ2学期が  
編入学生31名を加えて401名で

始まりました。新しいお友達も早く広州になれて充実した学校生活・海外生活が送れることを願っています。さて、始業式での生徒代表挨拶を紹介します。

みなさん、おはようございます。今日から一年間の中で最も長い2学期が始まります。みなさん、学校生活の中で、当たり前のようにやっていた「あいさつ」や「三分前着席」を覚えていますか？2学期もこの二つのことをしっかりと意識した学校生生活を送りましょう。

長い2学期には多くの行事があります。みなさんはどの行事を一番楽しみにしていますか？僕は修学旅行が一番楽しみたいです。なぜなら同じクラスの人たちとより一層絆が深められるからです。でもそのときだけ楽しいのでは意味がありません。その時までに学校生活でどれだけ頑張ってきたのかでその時味わえる楽しさが変わってくると思います。みなさんも、一番楽しみな行事まで頑張って最高の楽しさを味わって下さい。そしてこの2学期を今までで一番充実したものにできるように一人一人、一所懸命に頑張っていきましょう。

話は変わりますが、中学部は実力テストがあります。夏休みに勉強した成果が発揮できるように頑張きましょう。小学部は日々の学校生活を大切にして充実した学校生活を送れるようにしましょう。

児童生徒会 山崎

## 児童生徒会 あいさつ運動

Q)広州日本人学校の子どもたちのあいさつはどんな感じ？ A)まだまだです(；\_；)

担任や担当の先生とはあいさつを交しているようですが、普段余り接することが少ない先生とはできていないという印象を受けるのが広州日本人学校の現状です。先生からあいさつをされても返答もせず、目の前をすーっと過ぎていく子も結構居ます。学校を訪問していらしたお客さんにはさらに少なくなります。あいさつが良い学校です...とは言えない状況です。もちろん、中にはとても自然にあいさつができ、とても良い印象を持たれる子もいてその時は、うれしい気持ちになります。



あいさつは心のかがみ

あいさつには“慣れ”もあります。常に心がけているうちに自然に交わせるようになります。特に高学年から中学生の年代になると、あいさつができるかについてはその子自身の印象、時には評価にも関わります。学校見学や受験に行った際にあいさつが自然にできるようでありたいと思います。子どもたちには

是非身につけさせたい習慣だと思いますが、皆様にも賛同して頂けるでしょうか。学校では、児童生徒会の役員の子どもたちが、朝・帰りに階段などに立って登下校する子どもたちへ「おはよう」「さようなら」の声かけをして盛り上げようとしています。あいさつを返せない子...が一人も居なくなるよう期待しています。



あいさつできる子・好印象